

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390800043		
法人名	社会福祉法人とおの松寿会		
事業所名	グループホーム長寿庵		
所在地	岩手県遠野市材木町2-22		
自己評価作成日	平成23年9月16日	評価結果市町村受理日	平成24年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390800043&SCD=320&PCD=03
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成23年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・思い出の場所訪問を行っている。 ・家族参加のケア会議を行っている。 ・震災の経験を踏まえ、災害時マニュアルを整備し、実践に即した見直しを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>外部評価にむけての準備は職員全員の参加により、2ヶ月間程の間に4回の会議を行ってまとめられている。昨年の達成目標に向けての取り組みもきちんと行われており、外部評価がサービスの質の改善に上手に活かされている。利用者の「看取り」も、医師・家族・職員との話し合いや看護師による職員への指導などを通して、丁寧な関わりが行われている。その内容の振り返りも行われており、大きな財産として残されている。また、特筆すべきは、地域において事業所が果たしてきた役割についてである。人の集まることの少なかった地域において、子供会行事や地域交流会、避難訓練など地域の方が集まる場が創り出され、地域が変わってきている。今後、この事業所がどのような形で地域との関わりを持ち、地域づくりに貢献していくのが非常に楽しみである。最後に、法人として 心の健康があって初めて利用者への関わりもきちんとできることが理解され、外部の臨床心理士とのカウンセリング契約を結んで職員のメンタルヘルスにも取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	4月に理念の勉強会を行った。管理者と職員は、理念を共有し、日々実践につなげている。	基本方針の1つ1つの文言の意味について、職員が理解出来るように説明が行われている。理念の研修は毎年行われており、職員の心構えと共に毎日唱和されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	クリスマスには、地域の保育園、ベビーホームと相互訪問をしている。年末の餅つき、小正月のみずき団子作りには、地域の子供会が参加した。6月に地域住民参加の夜間避難訓練、7月には地域交流会を行った。	地域内に子供の数も少なく地域の行事も少ない所であったが、事業所の開設により共同で行う行事が増えている。子供会と共同で、みずき団子作りや餅つきをしたり、7月には地域交流会を行い地域の方が44名程参加している。ハロウィンには職員と一緒に作った紙芝居を保育園等で披露し、利用者が読み聞かせをするなど活動の場がつけられている。	地域密着型のサービスが出来ることで地域が変わり始めている。介護サービスの拠点としてのみならず、地域の持てる力を引き出し、地域力を再生するための活動へ意欲的に取り組まれることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への発信は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。地域の方々や市職員、他事業所の介護支援専門員等に委員を委嘱し、事業所の運営状況報告、情報交換、意見・助言等を頂いている。推進会議での助言により、利用者と地域住民がいっしょに盛り上げられるように地域交流会の座り方を工夫した。	併設の小規模多機能施設と合同で会議を行っている。事業所からの活動報告として震災時の様子を伝えたり、避難訓練や地域との交流会について相談を行うなど会議の内容が実際の運営に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホームの待機状況を月に毎月報告している。施設長が委員として、遠野健康福祉の里運営審議会及び遠野市介護保険事業計画等策定委員会義に参加し、情報を得ている。問題があった場合等には、その都度市町村に相談・報告している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が出席しており、事業所の状況については理解をもらっている。利用者の退院後の処遇について市に相談して助言をいただいたり、協力関係は作られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を行っている。日頃から身体拘束を行わないケアを実践している。開所時から現在まで身体拘束を行ったことはない。	法人として「身体拘束についての指針」を作成している。「身体拘束と虐待について」の研修も行っており、日頃から、言葉や態度等も含めた身体拘束を行わないケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴や排せつ介助の際に身体チェックを行っており、現在まで、虐待が疑われるような事例は発見されていない。身体拘束廃止部会が研修を行っている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム長寿庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	5月1日より短期利用の受入体制が整ったことに伴い、既契約者に対し契約内容の変更について説明し、順次変更契約を締結している。契約時や解約時には利用者及び家族に十分な説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年2月に家族懇談会を行った。利用者や家族の意見等をその都度聴取し、施設運営に反映させている。重要事項説明書に苦情受付窓口を明示している。	家族懇談会には利用者家族4名が参加した。事業所側から、ショート利用についてと受診付き添いを家族にお願いする理由について説明を行った。こういう場を設けることによって、家族の理解も深まり、協力関係を築くことにつながっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長による職員面談を年2回(6月と12月)実施している。就業に関するアンケートを実施している。アンケートの結果に基づき、外部の臨床心理士とカウンセリング契約を結び、法人として職員のメンタルヘルスに取り組み始めた。	職員面談の中では、職員の健康状態、今までどんな生活であったか、今後どうしたいか等の聞き取りが行われている。その内容をもとに、法人の安全衛生委員会の提案により職員のカウンセリングが行われている。また、職員間の連携をとるためにレターボックスを設置したり、パソコン講習なども行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジ目標を立て、各自が目標達成を目指し向上出来るように努めている。 外部の臨床心理士によるカウンセリングやメンタルヘルス研修を受ける体制が整備された。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度から個別キャリア開発計画書を導入し、個別研修計画の作成、実施を行っているが、定着するまでにはある程度の時間を要する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月開催されるグループホーム協会定例会に職員が交代で参加し、情報交換している。 震災の被災施設支援のためのボランティアに職員4名を派遣し、支援すると共に、当該施設と交流した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の際は、入所前に実調を行い、入所後はセンター方式シートを活用し、その人の暮らしの把握や不安、要望等を聴取している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実調を行い、不安、要望等を聴取している。センター方式シートを活用し、その人の暮らしの把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始後、以前の担当ケアマネからも本人や家族の意向や要望を確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者同士のトラブルが生じた時には、両者の間を取り持つ役割を務めている。裁縫や調理の手伝い等、利用者ができることは一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に家族に情報提供している。電話で家族から利用者の情報を聴取したり、利用者の日頃の様子を家族に伝えたりしている。利用者の定期受診等は、可能な限り家族に対応して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出の場所訪問を実施している。昔馴染みの理美容院の利用を支援している。	思い出の場所訪問を年4回実施している。家族の協力を得ながら思い出のレストランや、昔住んでいた町に出かけたりしており、利用者の笑顔の瞬間を大切にしたい支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、食事の席、外出する際にはクルマの座席の座り方等を工夫し、トラブルが起きないように、また、利用者が不安にならないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	昨年7月に同一法人が運営する養護老人ホームに入所した利用者があり、現在も事業所職員が養護に行くたび、本人に会い、不安や悩みを解消できるよう相談を受けている。 また、普段から利用者や家族の相談等に応じ、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から要望、意見等を聴き、職員間で情報を共有している。	センター方式を活用し、これまでの暮らしや思い、意向の把握に努めている。どんな物を食べたいかを聞いて、外食に出かけたりもしている。カンファレンスに参加した家族の話から気づきが得られることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式で確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は仕事に入る前に記録の確認をしている。申し送り等でも把握している。 職員間でその都度の情報交換を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを3ヶ月に1回実施。カンファレンスに参加できる家族には参加頂き、家族の意見等を介護計画に反映させている。家族が参加しやすいように、カンファレンスの開催は家族の都合に合わせて、日程を調整している。	「家族が参加するケア会議を実施する」ことを今回の目標として掲げ、取り組んできた。3組の家族にケア会議に参加してもらい、情報交換を行った。本人の状態についての理解が深まり、共通認識を持って関わることが出来るようになっており、家族の意見が介護計画に反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をし、問題点があった時は職員間で話し合い、場合によってはセンター方式シートを活用し、気づきや工夫を共有しながら、実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	思い出の場所訪問を実施している。 遠野の市街地を一望できる荒川高原へおにぎり持参でハイキングに出掛けるなど、利用者が季節を感じたり、変化に乏しい日常の中に適度な刺激を与えられるよう取り組んでいる。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム長寿庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	継続的に傾聴ボランティアに来ていただいている。 施設行事の際には、余興等のボランティアをお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が納得し、希望している医療機関の受診を支援している。利用者のかかりつけ医療機関とは良好な関係を築いており、特に隣接する開業医の強力なサポートが、利用者、家族、職員の安心を生んでいる。	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診が支援されている。受診は家族が付き添うことが原則となっている。家族に対して、病院への付き添いをお願いする理由についてきちんと説明しており、家族が納得した上で付き添いが行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護職員は、現在不在となっているが、同一法人が運営する養護老人ホームの看護職員とのオンコール体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネや介護職員が入院者を見舞い、本人の状態を確認するとともに、病棟の看護師等から入院者の状態や退院の見込みなどについて情報を収集している。 また、日頃から病院関係者との良好な関係作りを努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	2年前にがんが見つかり、主治医、家族と看取りについての話し合いをしてきた利用者を、今年4月に施設内で看取った。家族、主治医との連携、信頼関係の下、家族が望む形で看取ることが出来たと考えている。	看取りの経過を全職員で話し合い、「〇〇さんの最期の時を迎えるまでの生活支援」として反省点や良かった点、職員の想いなどをまとめている。看取りまでの時間が2年間程あったため、何度となく医師や家族、職員との意思確認、話し合いを行った。看護師による職員への指導もあり、職員も不安が少なく看取りが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	2年に1回、全職員が救急救命の講習を受け、実践力を身につけるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	6月に地域住民参加の夜間自衛消防訓練を実施した。日中想定総合自衛消防訓練は、11月に予定している。東日本大震災の経験を踏まえ、地震及び水害対応マニュアルの作成と見直しを行っている。	6月の避難訓練では、地域の方が事業所の玄関から駐車場までの利用者の誘導を担当してくれた。地域の方36名(含子供12名)の参加があり、自治会として地域の訓練として位置づけ、自宅から事業所までの位の時間で駆け付けられるかを計測している。今後、水害時の避難場所の見直しを行う予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の基本方針(理念)を策定する過程で、施設長が「尊厳」についての考え方、とらえ方を職員に伝え、全職員で確認した。 日頃からプライバシーに配慮した言葉かけや対応に努めている。言葉かけに関する苦情はない。	丁寧な言葉使いを心がけている。排泄を失敗した方には、他の利用者に気付かれないようさりげなくトイレに誘導するなど、プライバシーに配慮した対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを話しやすい環境作りに努めている。利用者と職員が1対1で行う学習療法は、様々な話題について語り合う機会にもなっており、利用者の思いを話しやすい環境ができています。 行事やレクへの参加についても、本人の希望や意志に基づいて参加していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望により夜間入浴を行っている。体調や気分が優れないときは、日にちを変え、出来るだけ入浴して頂くようにしている。 また、体調や気分が優れないときの食事は、居室配膳し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に合わせて、馴染みの理美容院を利用できるよう支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各利用者の嫌いなものを把握し、嫌いな献立の時には代替りのものを提供している。 献立には利用者の希望を取り入れている。 各利用者の出来る範囲で、食事の準備・後片付けを手伝っていただいている。	以前、出来ていた食材の下準備が出来なくなってきている方もいるが、可能な限り、配膳やお茶の準備、テーブル拭きなどを行っている。柿やジャガイモの皮むき、もやしの下処理は2、3人の利用者が行っている。1階の小規模多機能と同じメニューではあるが、別々の調理で、出来上がりもそれぞれの味わい深いものとなっている。互いにおやつ差しの差し入れ等もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録し、少ないような時は声かけをして、必要量の摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員の取り組みにより、朝夕の口腔ケアは、利用者全員が習慣化できている。昼は声掛けをし、口腔ケアを促している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム長寿庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限りトイレで用をたせるよう支援している。	オムツを使用している方はおらず、リハビリパンツの方は2名いる。リハパンを布の下着に替えていくなど可能な限りトイレを使用出来るように支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	担当を決め、話し合いを行い、少しずつ進めている(水分・食物繊維の摂取、体操、マッサージを取り入れている)。 排泄チェックシートを作成し、記録しているが、自立の利用者については、自己申告でおこなっているため、正確な把握が難しい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人が希望する時間に合わせて入浴している。	利用者の希望に合わせて4人の方が夜間入浴をしている。入浴の予定表を希望に沿って作成し、その予定を元に声掛けをすることで、今日は自分が入浴する日だとの納得の上入浴するように工夫がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の好みの場所で昼寝をしている。 また、こまめに温度管理、寝具の調整をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能等説明書をファイルし、それによって副作用等を理解している。 飲み忘れや誤薬を防ぐため、服薬マニュアルに基づいた取り組みを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事や外出(ドライブ、散歩、買い物)の機会を多く設け、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の思いに沿って、墓参りや懐かしい場所、特別な楽しみ等、行きたい場所への外出支援を行っている。	天気の良い時は近所に散歩に出かけたり、ゴミ出しにも出かけている。週に3回程度は職員の買い物と一緒に出かけ、精神的な安定を図っている。自宅の柿を職員と共に採りに行ったり、自分の必要な買い物に付き添ってもらったりと柔軟な支援が行われている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム長寿庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額を手元を持っていただき、欲しいものがあれば自分で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に葉書や手紙を出している。本人の要望に合わせて電話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りカレンダーや花を飾ることで季節感を取り入れている。 季節の行事に合わせて模様替えをしている。	季節感たっぷりのカレンダーを利用者と共に、毎月作成しており、季節の花と共に飾られている。また壁には、利用者から手ほどきを受け作った俳句が、利用者の作品と共に並べて掲示してあった。座席の配置も熟慮の上、決められており、職員の見守りのもと穏やかに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳コーナーがくつろぎのスペースになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に思い出の写真を貼っている。 自分の好きな花を飾っている。	居室にベッドが備え付けられている。タンスが持ち込まれたり、思い出の写真や花などが飾られている。居室入口には、利用者の意向を聞きながら名札や果物の名前などが掲示され、目印となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の点検、危険場所の点検を実施している。 自室がわかるように掲示場所等を工夫し、各居室に表札をつけている。 転落防止ストッパーを居室等の窓に設置している。		